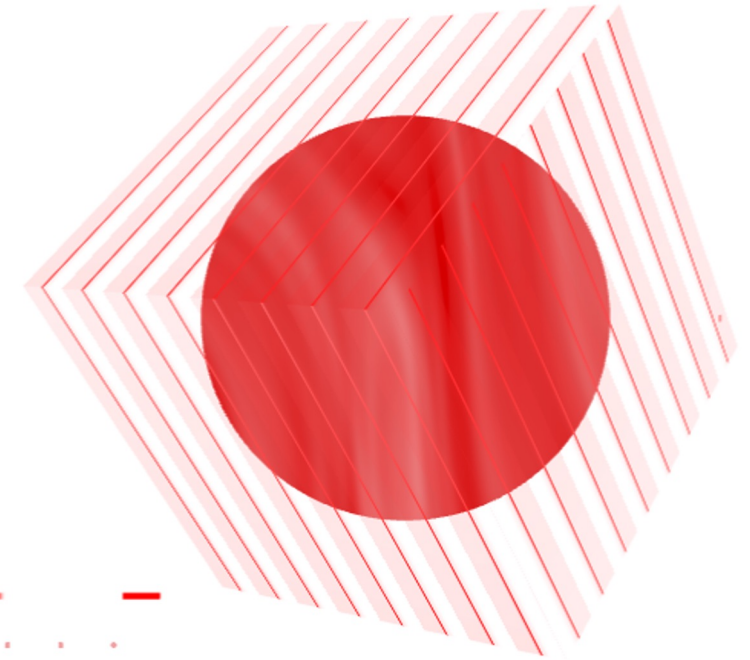


2023年10月期第2四半期 決算説明会資料

2023年6月14日



1 2023年10月期第2四半期決算概要

2 事業ハイライト

3 成長戦略

4 Appendix

全 体 感

- ・赤字決算で着地
- ・営業損失395百万円のうち415百万円相当が、キャッシュアウトのない評価性損失
- ・有価証券売却による収入により、キャッシュフローを獲得し引き続き財務体質は強固

セグメント業況

- ① ブロックチェーンサービス
 - ・のれん償却費が負担
 - ・Game Fi領域でのパートナーシップを構築し提携開発開始
- ② システムエンジニアリング
 - ・順調に黒字体質を維持
 - ・エンジニアリソース獲得のための採用競争力の強化が課題
- ③ インキュベーション
 - ・暗号資産不況による評価減発生するが、一方売却益も獲得
 - ・有価証券売却益を獲得し、特別利益を計上

業 績 予 想

- ・変更なし
- ・ブロックチェーンセグメントにおいて、Q3以降に複数案件の収益化を見込む

01

2023年10月期 第2四半期決算概要

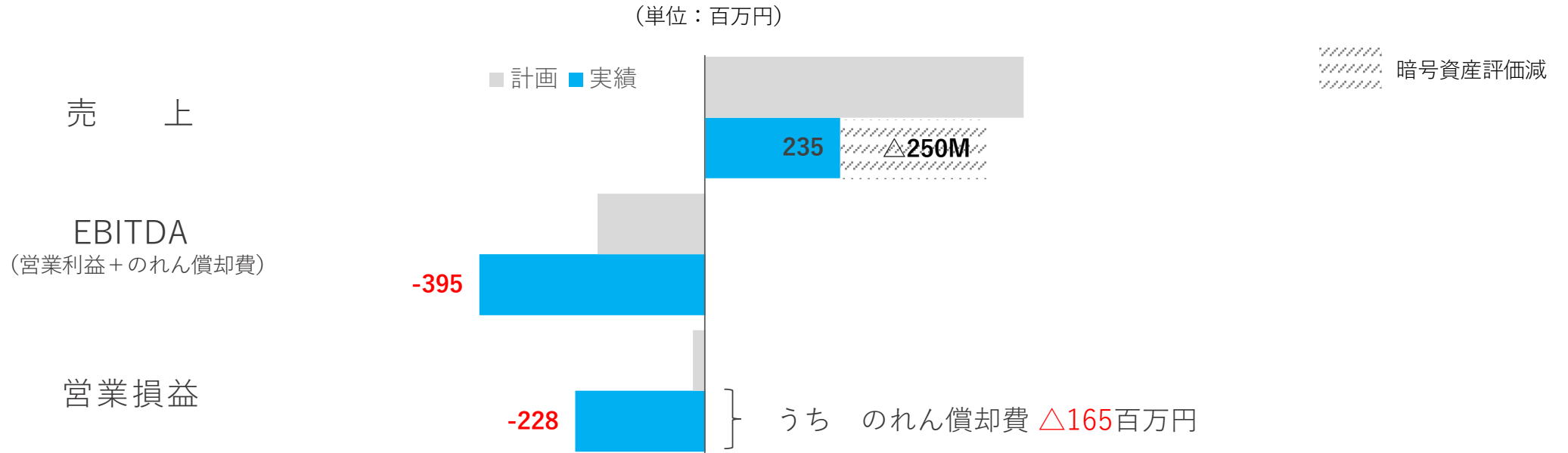
- ・ 前期Q2と比して、いずれの指標もマイナス着地
- ・ 連結対象となる事業や法人に変更が生じており、前期比において乖離が生じている
- ・ 暗号資産評価減の影響により各収益指標に影響
- ・ 有価証券売却による特別利益を計上

(百万円)	(参考) 2022年10月期 第2四半期	2023年10月期 第2四半期	増減	
			増減額	%
売上高	834	235	△598	△71%
EBITDA	166	△ 228	△395	△237%
営業利益	97	△ 395	△493	△506%
経常利益	103	△ 388	△491	△475%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	454	△ 24	△478	△105%

特別利益
394百万円

※ 2022年10月期第2四半期は、譲渡済みのEラーニング事業および連結子会社の事業収益が含まれております。

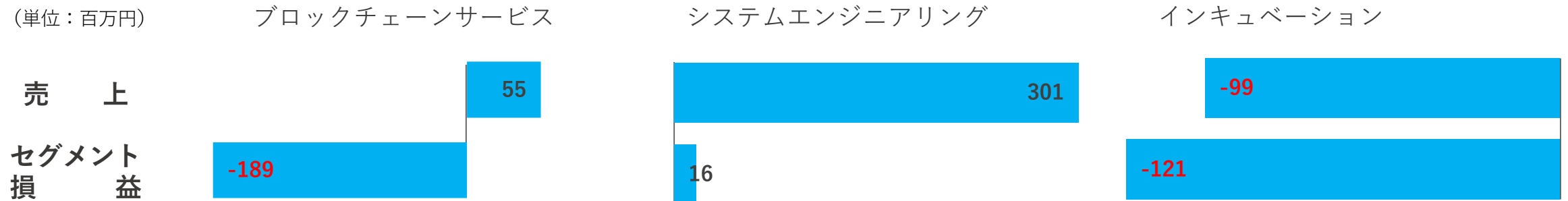
- ・ブロックチェーンは、のれん償却費の負担によりマイナス
- ・インキュベーションは、暗号資産評価減の影響を受けた



※ 四半期別目標（社内指標）との比較を表示しております。

セグメント損益の状況

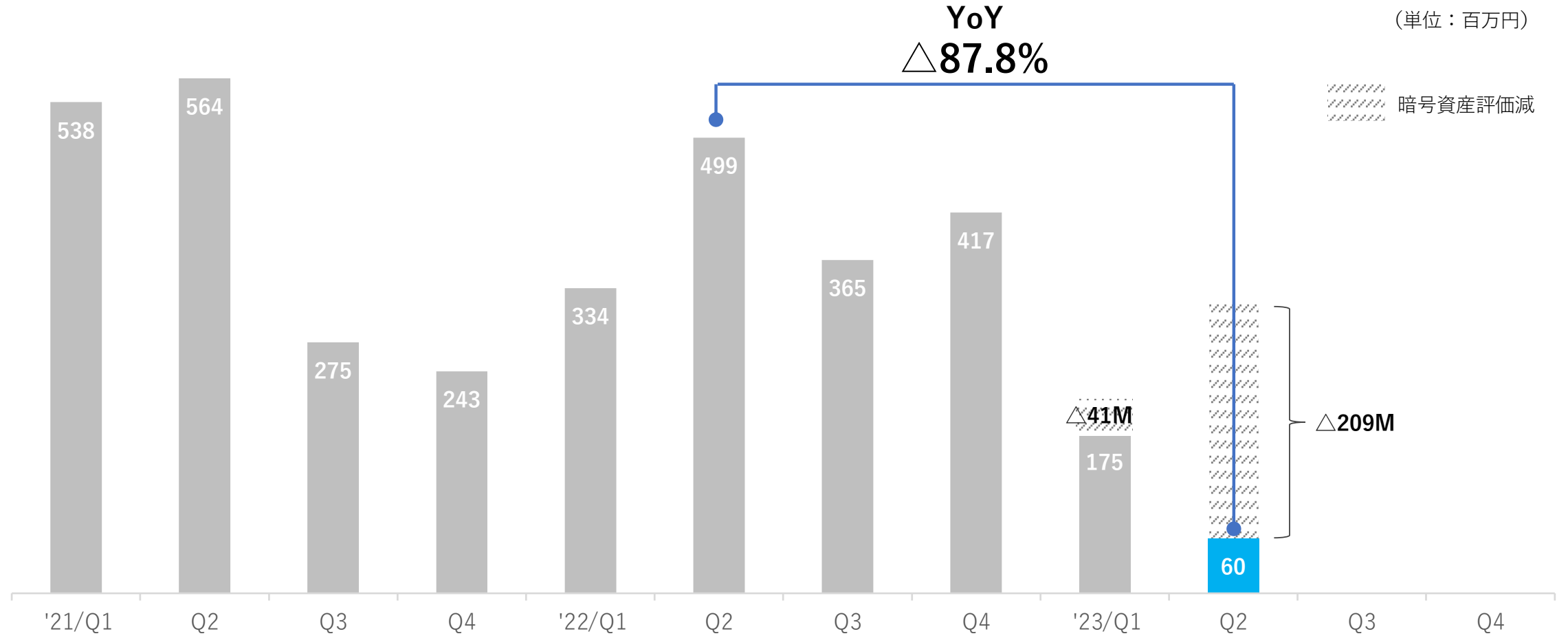
(単位：百万円)



※ セグメント別ののれん償却費を含むセグメント利益を表示しております。
 ※ セグメント売上はセグメント間の内部売上を含めた表記としており、その合計値は連結売上数値と一致していません。

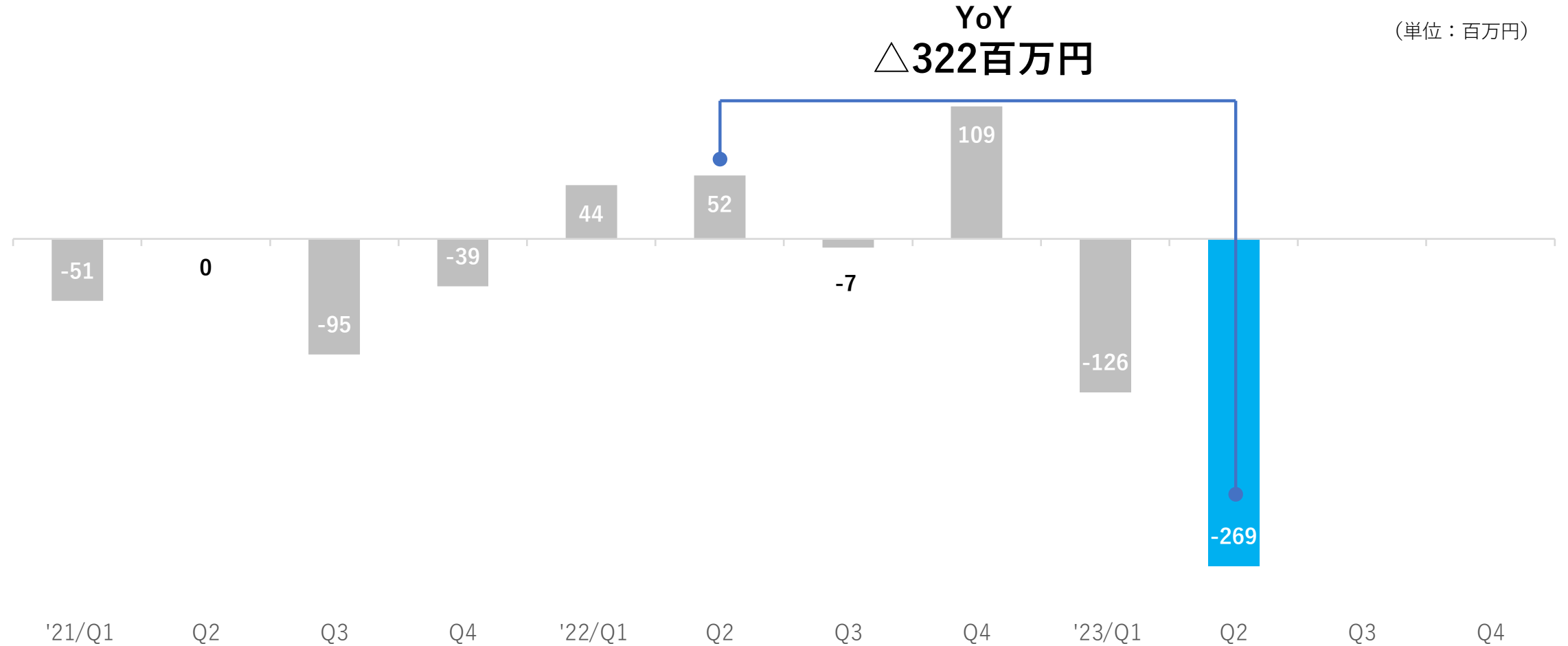
売上高の推移

- ・前期Q2と比して、Eラーニング事業および子会社の譲渡による影響
および暗号資産評価減の影響を大きく受ける結果

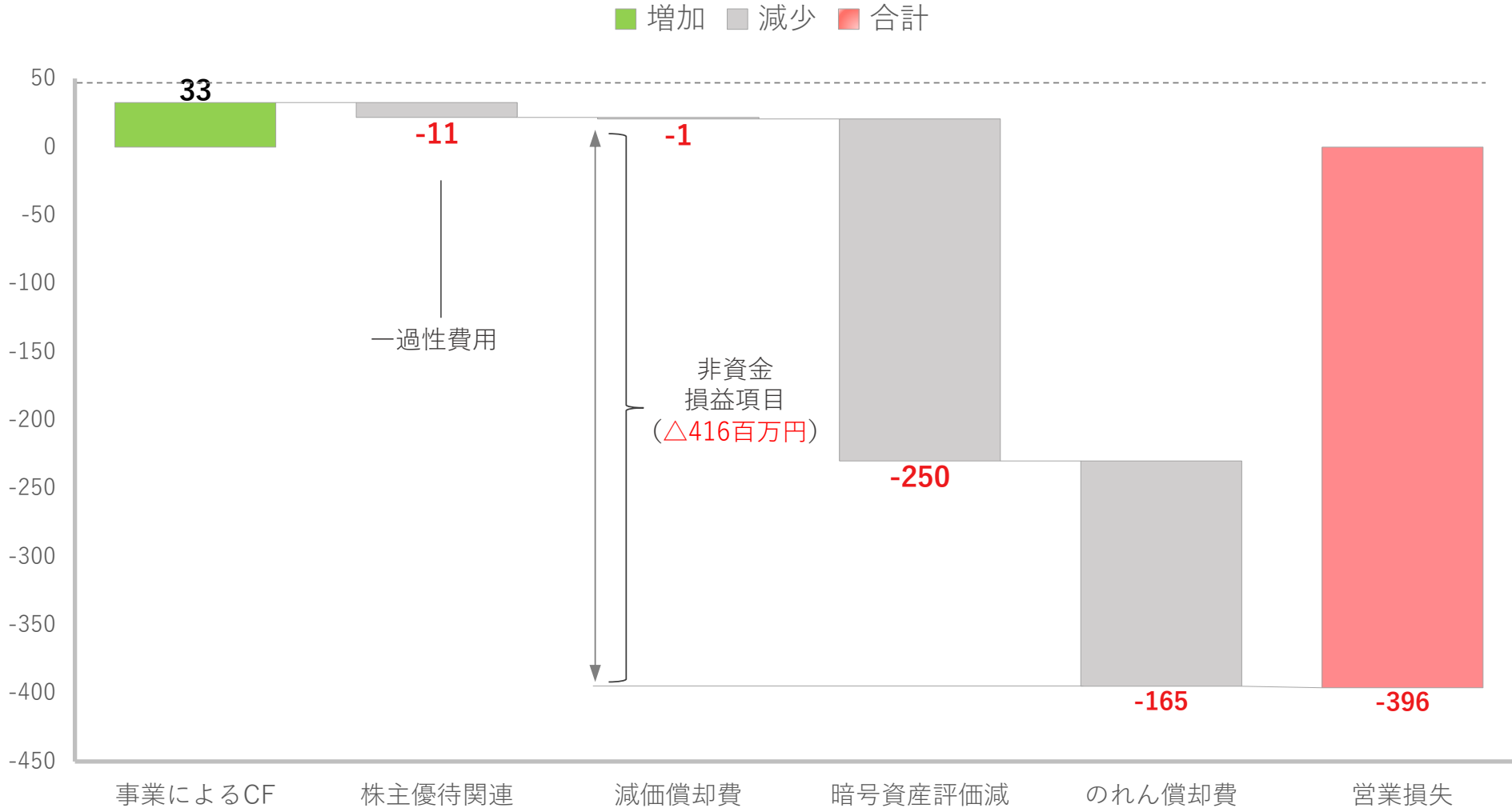


営業損益の推移

・前期Q2と比して、のれん償却費の増加および暗号資産評価減によるマイナス影響を上回る事業収益および投融資事業収益を獲得できず、営業利益は減少



(単位：百万円)



・引き続き財務健全性を維持 自己資本比率92.1%・負債比率7.9%

・資産売却を行い、適切な資産管理を継続。手元流動性を高め、事業投資に繋げる

(単位：百万円)

	2022年10月期	2023年10月期 第2四半期
資産の部		
流動資産		
現預金等	1,169	1,592
暗号資産	1,084	1,092
流動資産合計	2,809	3,052
固定資産		
有形固定資産	4	4
無形固定資産	2,131	1,966
投資その他の資産	1,498	1,056
固定資産合計	3,634	3,027
資産合計	6,444	6,080

	2022年10月期	2023年10月期 第2四半期
負債の部		
流動負債		
短期借入金	30	52
1年内返済長期借入金	57	56
流動負債合計	284	212
固定負債		
長期借入金	221	192
固定負債合計	311	235
負債合計	596	447
純資産の部		
株主資本等		
資本金	50	50
資本剰余金	4,855	4,855
利益剰余金	731	707
自己株式	-12	-12
純資産	5,848	5,632
負債純資産合計	6,444	6,080

02

事業ハイライト

状況や対策等

1-ターゲット選定
リード獲得



属性：上場企業中心
業種：Game、プラットフォームサービス

2-サービス内容
拡充



- ・ Web3ビジネス企画やコンサルティング、ブロックチェーンを用いたシステム開発
- ・ トークンやNFTの発行及び上場支援

3-顧客課題への
対応



- ・ 暗号資産に関する規制対応
- ・ 税務、会計、法務に関する知見の提供

4-契約締結



- ・ パイプライン（GameFi、アートトークン）
- ・ プロジェクト（Web3ビジネス企画等）
- ・ POC and more . . .

5-プロジェクト
スタート



- ・ サービス提供
- ・ 収益化開始

Gameとトークン（NFT）の相性は非常に良く、なかでも上場企業との接点が増加

当社が強みとするトークン発行支援に加え、規制対応面での各種コンサルティング依頼も増加

規制優遇地域（フリーゾーン）でのトークンビジネスの支援体制を構築。海外進出を支援

案件内容の多様化
Web3企業との提携も増加（次ページ）

複数プロジェクトを同時並行で動かせる体制化Bizdevメンバーの増員。管理手法の改善



- ・ 各種の優遇措置が認められるフリーゾーンであるドバイ及びアブダビにおいて、ブロックチェーンゲームのパブリッシングを行うための総合支援事業を開始。日本プロジェクトの海外展開をサポートする。

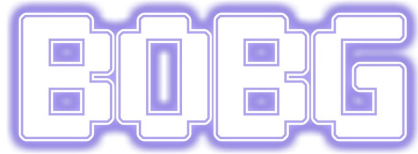
- ・ ブロックチェーン業界で実績豊富なOne Asia Lawyersの森和孝弁護士、ドバイにて森弁護士と戦略的パートナーシップを結んでいるPinset Maison LLPのTom Bicknell弁護士と協業。



- ・ 異なるブロックチェーン間のインターオペラビリティ（相互運用）に関する豊富な経験を持つDatachainとパートナーシップ関係を構築。クロスチェーン技術の具体的な適用において連携。

- ・ 各ブロックチェーンは独自の技術基盤と規格に基づいており、相互に通信やデータの共有が難しいという課題がある。クロスチェーン技術の普及により、ブロックチェーンプロジェクトの相互運用性が向上する。

and more . . .



- ・ doublejump.tokyo、BOBG社と連携してトークン発行/管理/運用の支援を行い、エコノミクス設計から上場、グロースまで一気通貫で包括的なサポートを提供する。

- ・ 本パートナーシップによりさらに多様なトークン発行ストラクチャー構築を可能。また、doublejump.tokyo、BOBG社との連携により、ゲーム会社等へのサポートも拡大する。



- ・ 海外展開を見据えたWeb3プロジェクトにおけるPolygon導入サポート体制を強化。

- ・ PolygonStudiosとの協業により両社の知見共有と開発連携を図ることで、Polygonブロックチェーンの利用を検討されるお客様へのサポートを実施する。



- ・ 顧客の利便性向上や日本円でオンチェーンのNFT取引ができる「SBI Web3ウォレット」を活用したWeb3プロジェクトの支援を開始。

- ・ 本協業が進化することにより、パブリックチェーンでのNFTを活用したビジネスを検討しているIP保有企業やゲーム企業等のスムーズな参入を支援する。

ドリコム社とブロックチェーンゲーム開発を開始

ドリコム社の主力IPであり、RPGの不朽の名作「Wizardry（ウィザードリィ）」をブロックチェーンゲームとしてアレンジ

チューリングラムはトークノミクス設計の役割を担い、ゲームアイテムの交換取引やゲームトークンを含むサステイナブルなゲーム経済圏の構築を技術面でサポート

『Eternal Crypt -Wizardry BC-』

公式サイト：<https://wiz-eternalcrypt.com>

Wizardry



・参考 2023年5月11日付プレスリリース
https://www.kushim.co.jp/ir_news/pr_20230511/



Web3.0政策における主要な論点

- まずは「日本ではWeb3.0関連の事業が困難」とさえ言われる事業環境の改善が必須。主要論点は以下。
 - ①金融規制：暗号資産の解釈
 - ②税制：法人税制（暗号資産の期末時価評価課税）
 - ③その他：監査法人による会計監査問題やLPS法、賭博罪該当性、無断NFT対策等
- 加えて、中長期的観点でブロックチェーン技術の発展のための施策（研究開発支援・人材育成等）も重要。

1	暗号資産の該当性	✓ ブロックチェーン上で発行されるデジタルなアイテムやコンテンツ等のうち、同種のもが複数存在する場合等の暗号資産該当性に係る金融庁の解釈指針策定についてサポートする。
2	法人税制(暗号資産の期末時価評価課税)	✓ 自己発行・自己保有の暗号資産は、期末時価評価課税の対象外とする税制改正要望 ✓ また、スタートアップの起業や事業成長を支援する投資家等が保有する暗号資産についても見直しに向けて検討する
3	監査法人による会計監査問題	✓ 監査法人から受嘱を忌避される事例が複数存在。今後、金融庁や民間業界団体と連携・協同し、公認会計士・監査法人による監査を受けられるような環境整備を進めていく予定。
4	LPSによるトークン保有問題	✓ セキュリティトークンが投資対象に含まれるか等のLPS法解釈について整理。トークンへの投資については、資金調達の実態や課題等を調査した上でLPS法の取扱いについて検討
5	無断NFT対策	✓ 権利者の許諾を得ないコンテンツを使用した「無断NFT」対策の報告書とりまとめ
6	NFTの賭博罪該当性の解釈	✓ スポーツDXレポートにおいて、NFTのランダム型販売と二次流通市場のサービスや、NFTとファンタジースポーツを合わせたサービスの賭博罪該当性についての見解を整理し公表
7	ユースケース創出支援	✓ コンテンツ業界・スポーツ業界等における新たなユースケース創出の支援（予算措置）
8	海外人材呼び込み	✓ 民間と連携してグローバルの第一人者を招いた国際的なイベントの開催をサポート
9	研究開発支援・人材育成	✓ ブロックチェーンの技術的・社会的課題を解決するための研究開発・人材育成等が課題

金融規制・会計税制

直近の状況

2023年6月1日
改正資金決済法施行
法定通貨型ステーブルコインの発行が可能。
銀行等が発行可能となり、税制・法制面整備も期待。

大きな変革

ステーブル
コイン

今後の変革
(予測)

ファン
トークン

コミュニティ
Platform
トークン

外部環境と
自社の取り組み

ブロックチェーン
Web3ビジネス多様化

Game Fi	ファン
to Earn	NFT
トレーサビリティ	サプライチェーン

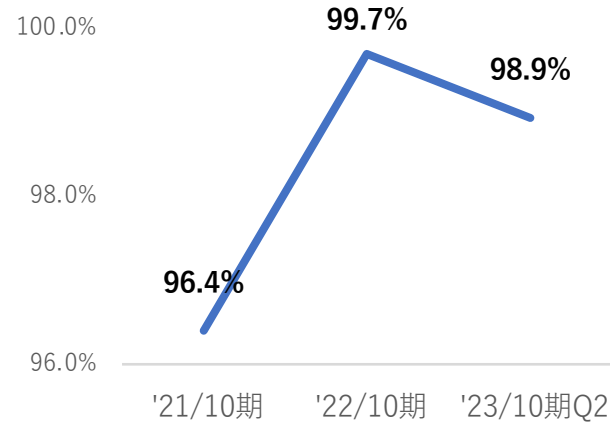
我々の取り組み

- ・ 国家政策と大企業の動きに寄り添う形でサービスを転換
- ・ SDGsやWeb3事業化ニーズに対応する新サービスをリリース予定

出典：経済産業省Web3.0事業環境整備の考え方 2022年12月16日 大臣官房Web3.0政策推進室

- ・ 主要KPIであるエンジニア稼働率は高水準を維持
- ・ エンジニアの市場価値アップにより一人当たり売上も上向きトレンド

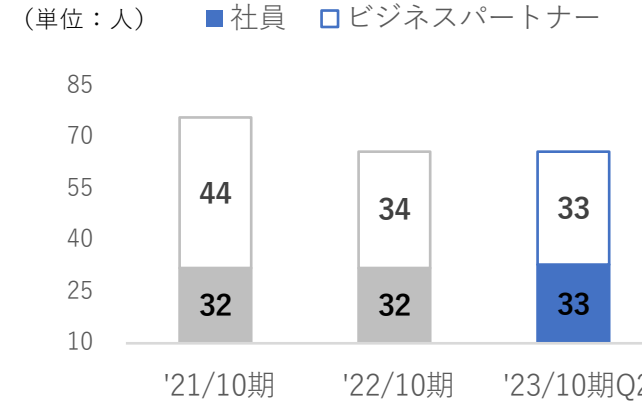
エンジニア稼働率



・ ITエンジニアのニーズが高まるなか、強みとしているWEB系開発において継続的に受注。

・ 既存と新規顧客に積極営業を展開。

エンジニア数

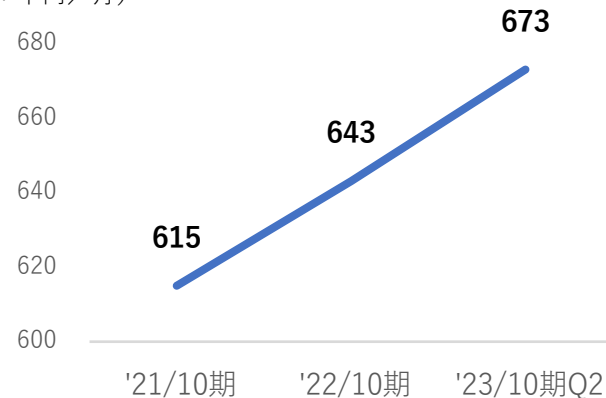


・ コロナ禍での採用見直しにより、エンジニア数は横ばい。

・ 2023年は採用チームを創設し、採用競争力を高めエンジニア数を増加させる。

一人当たり売上

(単位：千円/月)

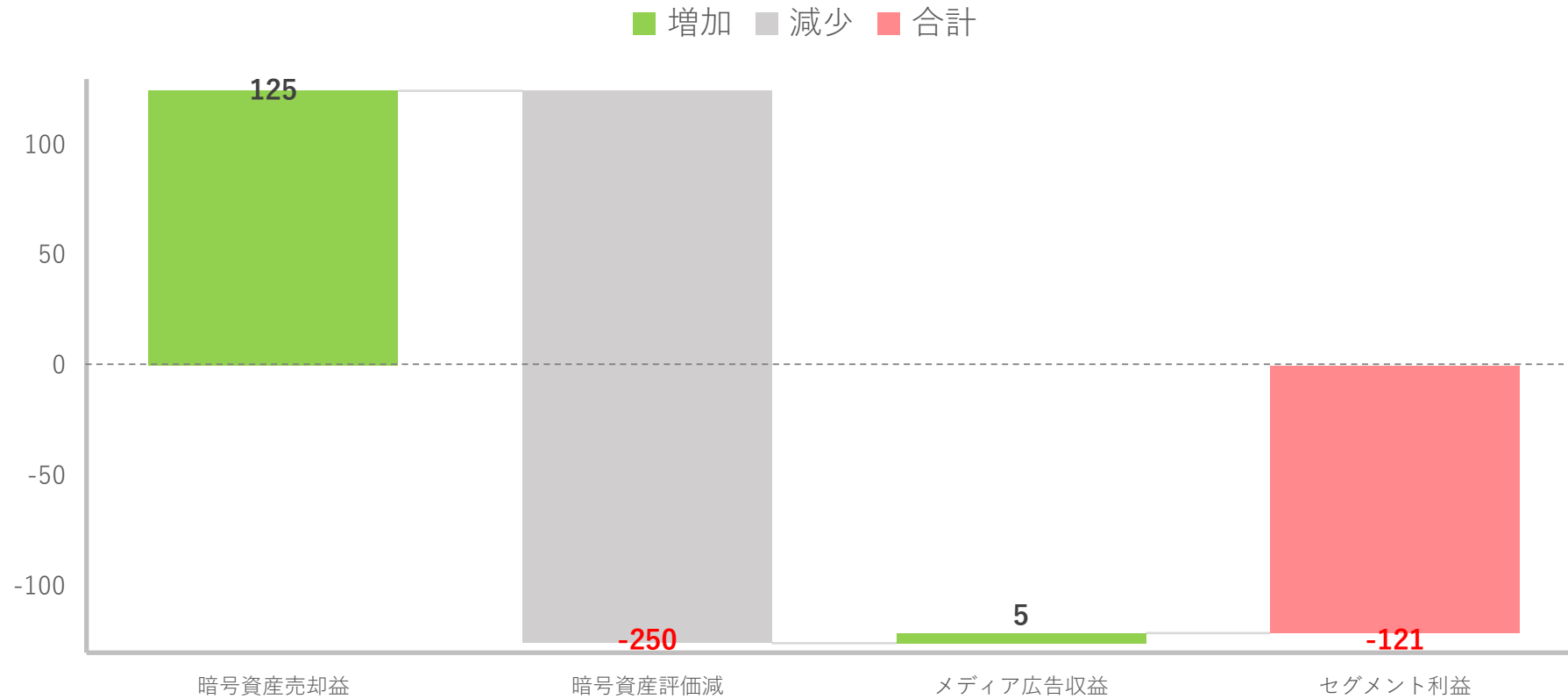


・ 小規模の強みを活かした組織運営により、従業員の定着化がスキルアップと客単価向上の成果に貢献。

・ さらなる上位レイヤーの業務を獲得し、客単価向上を狙う。

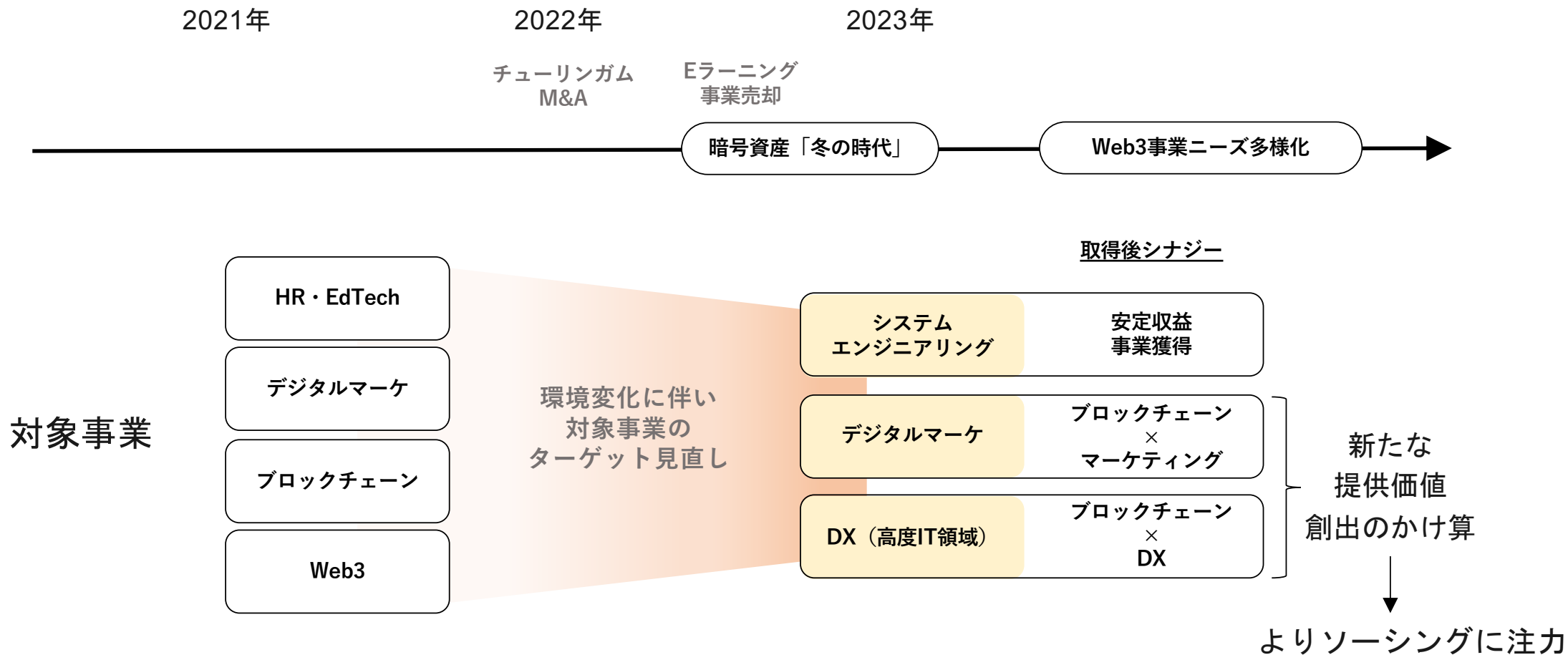
- ・ 暗号資産売却益を獲得するものの、市場の不況による評価減が上回る
- ・ 引き続き市場動向を注視し資産ポートフォリオを適切にマネジメント

(単位：百万円)



M&Aの取り組み

- ・ 対象事業のターゲットをより鮮明にし、事業シナジーの獲得を狙う
- ・ LOI2社提出するも他社との交渉ステージへ



03

成長戦略

- 1

既存事業のオーガニック成長

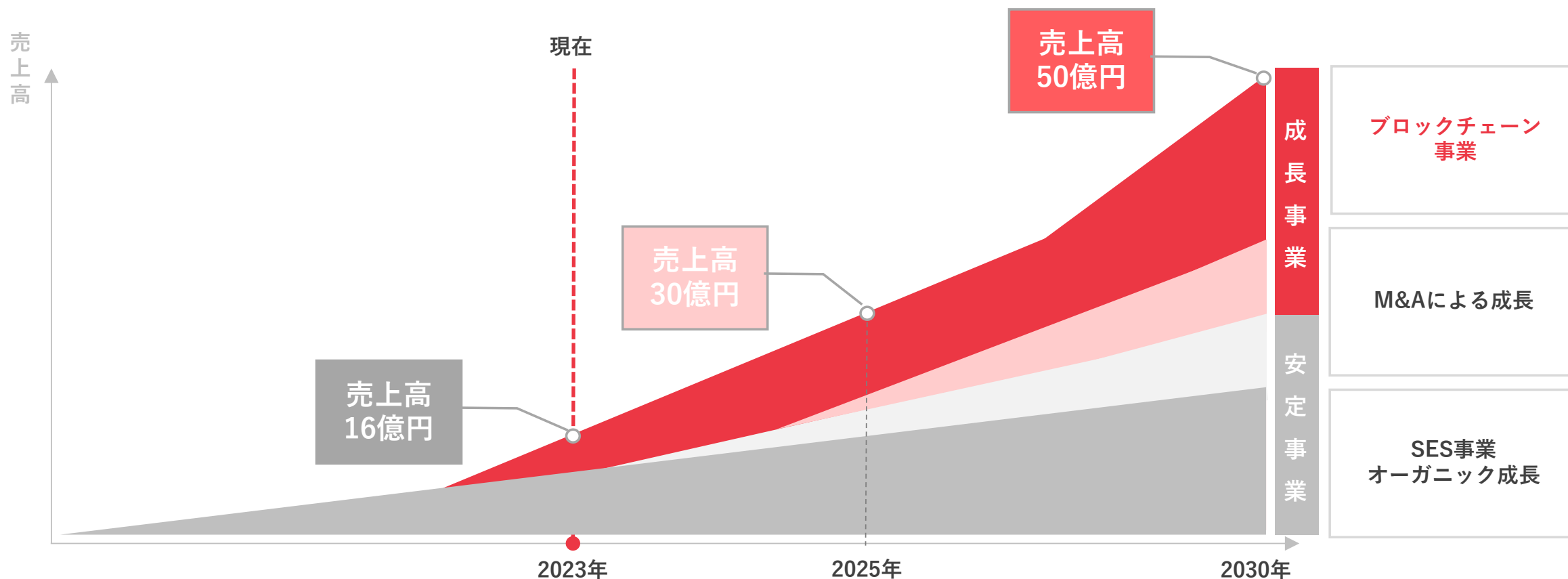
SES事業において、「採用強化」「付加価値向上（スキルアップ）」「営業強化（顧客獲得）」を中心施策として成長を促進
- 2

M&Aによる成長

M&Aを加速させ、ケイパビリティとキャッシュフロー事業の獲得を行い、成長に繋げる
- 3

ブロックチェーン事業+α

ビジョンとして掲げるブロックチェーン事業の収益基盤の構築



業績見通し

- ・業績見通しは据え置き
 - ・Q3以降に予定するプロジェクトパイプラインの収益が計画達成のトリガー
 - ・システムエンジニアリング事業の安定収益維持、ブロックチェーン事業の案件化
- M&Aによる収益力の向上

(百万円)	2022年10月期 実績	2023年10月期 見通し	前年比 (%)	見通しに対する解釈
売上高	1,616	2,289	142%	高い売上高成長を継続
EBITDA	441	686	155%	事業キャッシュフローの獲得・成長
営業利益	199	323	162%	
経常利益	193	325	168%	
当期純利益	753	315	42%	黒字決算の継続

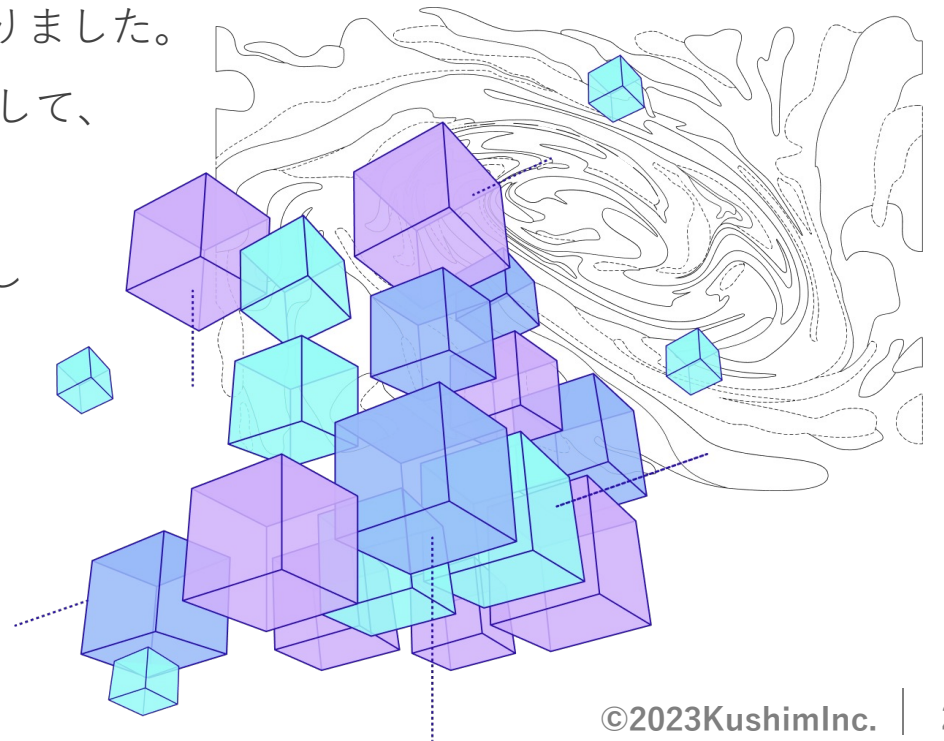
04

Appendix

会社名	株式会社クシム
代表者	代表取締役会長 中川博貴 代表取締役社長 伊藤大介
設立	1997年6月12日
資本金	5,000万円
社員数	連結54名（2023年1月現在）
上場市場	東証スタンダード市場（2345）
本社	東京都港区南青山6-7-2
事業内容	ブロックチェーン技術のR&Dおよびシステム開発事業 システムエンジニアリング事業 投融資事業

ブロックチェーン技術の社会実装 を推進しその普及に貢献する

わたしたちは、これまでブロックチェーンの技術に真摯に取り組んでまいりました。
2022年より更なる高みを目指し、ブロックチェーンサービスカンパニーとして、
社会から必要される企業に生まれ変わりました。
ブロックチェーン技術を活用したサービス・プロダクトの社会実装を推進し
その普及に貢献することをMissionに掲げております。



ブロックチェーン・Web3に特化したプロジェクト支援サービスを提供

ビジネス企画からシステム開発、プロジェクト運営まで一気通貫でサポート

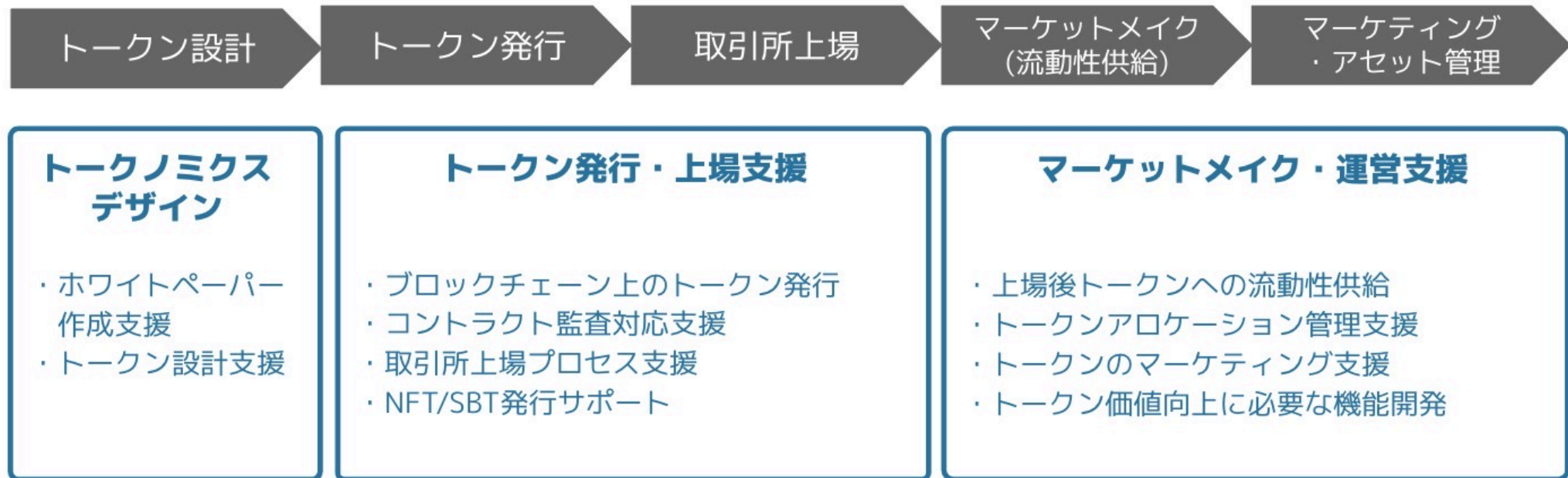


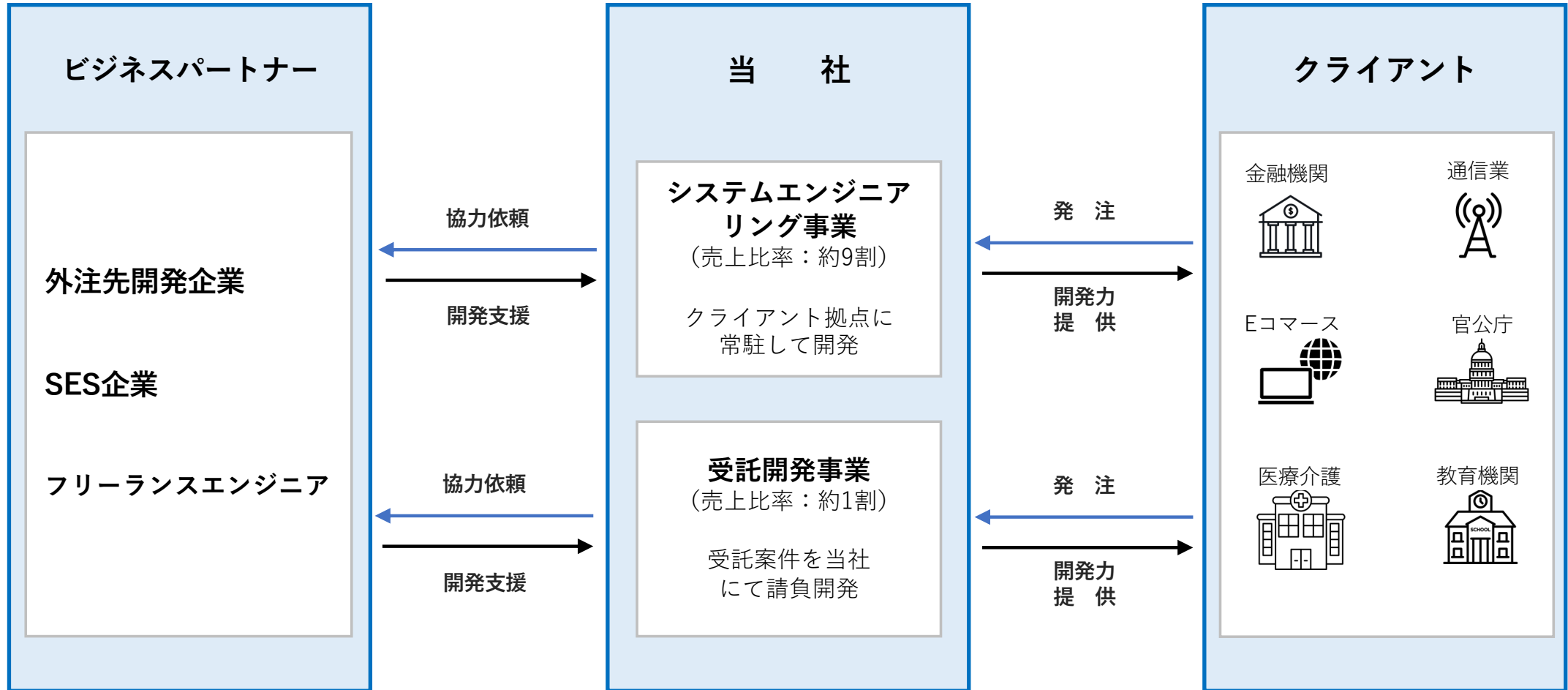
主なサービス内容

- トークノミクス設計などの企画
- トークン上場、マーケットメイク支援
- トークンにかかるマーケティング支援
- スマートコントラクト開発
- NFT/SBTビジネス企画・システム開発
- NFTマーケット等の取引システム開発

トークンプロジェクトのフロー

- ・ トークンの企画段階から管理・運営まで総合的にサポートいたします
- ・ PJのフェーズ、ニーズに合わせた柔軟なサポートプランの設計も可能です





投融資事業

複数の暗号資産および有価証券に投資を実行
BTC、ETH等、アルトコイン
その他

メディアサイト運営事業

- ・暗号資産・NFT・GameFi等
- ・資格取得

あなたの選択肢をもっと自由にするメディア


M&A 資本業務提携

M&A仲介企業やデータベースを用いて候補となる企業のソーシング

対象企業：

- ・SI /SESおよび高度ITエンジニアリング
- ・ブロックチェーン領域の企業

本資料の取り扱いについて

本書は、株式会社クシムに関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述を含みます。これらの記述は、当社が本書の作成時点において入手した情報に基づき、本書の作成時点における予測等を基礎として記載されています。

これらの記述のためには一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述、または前提(仮定)は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。このような事態の原因となりうる不確実性やリスクに関する追加情報については、当社の決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌、アニュアルレポート等をご参照ください。

本書における将来に関する記述は、本書の作成時点のものであり、本書の作成時点の後に生じた事情によりこれらの記述に変更があった場合でも、当社は本書を改訂する義務は負いかねますのでご了承ください。

本書における当社以外の企業等にかかわる記述は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について、当社はこれを保証するものではありません。本書で使用するデータまたは表現等の欠落、誤謬、本書の使用により引き起こされる損害等に対する責任は負いかねますのでご了承ください。

本書にかかる一切の権利は、株式会社クシムに帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、当社の書面による承諾を得ずに複製または転送等を行わないようお願いいたします。



Küshim